産業都市常任委員会行政視察報告書

1　実施日

平成29年11月６日（月）～11月７日（火）

2　視察市及び視察項目

⑴　岡山県倉敷市

観光施策について

⑵　岡山県岡山市

旭川かわまちづくり計画について

3　産業都市常任委員

委員長	河野慎一	副委員長	小澤宏司
委員	江野澤隆之	委員	奥山智
委員	立川清英		

4　随行職員

議事課主事　佐藤孝洋

岡山県倉敷市　観光施策について

倉敷市は，白壁の建物や柳並木が美しい美観地区を有する倉敷地区，日本有数の工業地帯である水島地区，瀬戸内海の多島美と国産ジーンズ発祥の地である児島地区など８つの地区を有している。今回の行政視察は，倉敷地区内の倉敷館を訪れ，職員から説明を受けた後，現地視察を行った。概要は下記のとおりである。

○倉敷観光振興プログラム

平成16年に「倉敷市観光振興アクションプラン」を策定し，観光を極めて裾野の広い総合産業として捉え，全市を挙げて総合的にその振興を進めてきた。しかしながら近年では，情報流通ルートの多様化や参加体験型観光ニーズの高まりなど，観光を取り巻く環境は大きく変化している。そこで，新たな計画である観光振興プログラムを平成28年３月31日に策定し，観光振興に向けた施策展開として以下の５つの戦略を掲げている。

①　魅力を高める観光資源の創出

観光地を持続的に発展させるためには，観光客をリピーターにすることが重要である。地域の多様な主体が潜在的な観光資源を発掘し，観光サービスを創造すること等により，何度訪れても楽しめる観光地の実現を目指す。倉敷の産業や食を活かした観光の推進，夜景・灯りを活用した夜型観光の推進等の施策が挙げられる。

②　都市間連携の推進

県内をはじめ，関西や中国・四国からのアクセスが良いため，それぞれ異なる魅力を持つ周辺都市と連携し，遠距離からの誘致につながる取組を進める。外国人観光客をターゲットにした広域連携の強化や周辺都市と連携したツアーの実施等に着手している。

③　誘致活動の強化

国内外から選ばれた観光地になるためには，観光客のニーズや動向を捉えたマーケティング戦略の構築が必要であり，認知度やイメージ向上のため，戦略に基づいたプロモーション活動を官民連携で進める。

④　受入環境の充実

少しでも長く滞在してもらうため，ハード・ソフト両面での整備を進め，居心地の良い観光地作りを進める。おもてなし人材の育成や観光案内の強化などに取り組む。

⑤　情報発信の充実

国内や国外，地理的状況等により，観光資源の認知度や旅行目的によって必要となる情報が異なるため，それぞれの対象に合わせた情報発信を行う。「観光ＷＥＢ」による情報発信力の強化や，ＳＮＳなどの多様な媒体を活用した情報発信が主な取り組みとなる。

〇地方創生に向けた取り組み

・倉敷みらい創生戦略

人口減少に歯止めをかけ，世代を超えて暮らし続けたい，未来に向けて暮らしてみたいと思われるまちを目指すため,「ひとを惹きつけるまち倉敷」「働く場を創るまち倉敷」などの４つの基本目標がある。その他にも新たな取り組みとして，商工会議所等と自治体が一体となって取り組む児島ジーンズストリートの更なる整備や，児島下津井を舞台としたアニメ映画「ひるね姫」とタイアップした観光プロモーション等も行っている。

・高梁川流域連携中枢都市圏による事業の取組

流域７市３町の自治体を中心に昭和29年３月に創設。主に，圏域内の官民が一体となった観光力の強化や，外国人観光客の更なる誘致拡大，地域資源の販路拡大等に関する各イベントやセミナーを開催している。

〇質疑応答

・観光客の誘致や支援を行っている公益社団法人倉敷観光コンベンションビューローの変遷について質疑があり，元々は合併前の３市にそれぞれ観光協会が存在したが，合併後にそれらをまとめ倉敷市観光協会を設立。その後，平成15年に倉敷コンベンションビューロー等と統合し，現在の形になったとのことである。
・国別の外国人旅行者数について質疑があり，台湾や香港については岡山空港から直通便が出ているため，特に訪問者は多いとのことである。

岡山県岡山市　旭川かわまちづくりについて

岡山市内中心部に流れ，水辺に沿った遊歩道の整備も進み，地域住民の憩いの場となっている旭川のかわまちづくり計画について，岡山市役所を訪れ，職員から説明を受けた。概要は下記のとおりである。

○-集う・憩う・楽しむ水辺-「旭川再生！」について

平成26年11月に岡山市と国土交通省が共同で記者発表した取組である。

旭川は，江戸時代以降，高瀬舟による舟運が盛んであり，賑わいを見せていたが，昭和初期には舟運の姿は消え，水辺の賑わいも失われていった。一方，岡山城や岡山後楽園は，賑わいの拠点として高いポテンシャルを有するが，旭川の水辺空間が十分に活かされていなかった。そこで，失われた旭川の水辺の賑わいを再生し，市民の憩いの空間を作り，岡山城や岡山後楽園と一体となった魅力ある空間として旭川の再生を行うこととなった。

当発表では，回遊性の向上と魅力づくりに向けた取組として旭川を中心とした賑わいの拠点づくりについて８つの施策を連携して取り組むとしている。

主に掲げられた施策としては，水辺の回遊性の向上のため，歩行性の悪い水際部や堤防上の回遊路を安全に散策可能となるように整備すること，現在地や目的地を明確にするため，周遊ルートを分かりやすく表現した案内看板等を設置すること等。

その他にも，水辺の魅力を活かした賑わいの拠点創出のため，水辺の見えるオープンカフェの常設や賑わいの場の創出と安全性の向上を目的とした護岸整備等を行うこととしている。

○旭川水辺再生戦略会議について

産学官のトップにより，旭川の水辺の利活用促進と，岡山城・岡山後楽園周辺を中心とした岡山市の魅力あるまちづくりについて検討するための推進組織である。メンバーは岡山市長をはじめ，商工会議所会頭や，岡山県の土木部長等から成り立っている。-集う・憩う・楽しむ水辺-「旭川再生！」の取組の具体化に向けた戦略会議となっており，旭川全体に渡る川づくり等について意見交換を行い，旭川の利活用促進，魅力あるまちづくりについて検討している。

○「ミズベリング岡山旭川」について

岡山城・岡山後楽園周辺の旭川一帯について，賑わいの拠点づくりと回遊性の向上を図るため，市民の参画・協働により，イベントを通じて水辺の新たな可能性を引きだすことが目的。実行委員会は，市をはじめ，商工会議所や大学，ＮＰＯ法人等で構成されている。

実際に昨年開催されたミズベリング岡山旭川2016では，カヌー体験やミニコンサート等の実行委員会企画のイベントに加え，新たな試みとして市民からイベントを公募し，お灸体験や河川敷での市民体操，お城の石積み体験等が実際に実現している。

また，水辺利用の先進事例や新たな可能性についてワークショップ等も開催している。

○質疑応答

旭川周辺のかわまちづくりと中心市街地活性化の関係性について質疑があり，電車やバスの交通拠点であり，大型商業施設のある岡山駅周辺と岡山城や岡山後楽園など文化・観光施設が集積した旭川周辺については，切り離すことができない関係であり，当然，中心市街地の活性化は，様々な部署が所管となるため，相互に意見を交換しながら進めていくこととなる。また，かわまちづくりと中心市街地活性化には，別々で交付金等を受けているとの回答があった。